全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

児童生徒への教育指導の充実や、学習状況の改善などに役立てるため、全国の小学6年生と中学3年生を対象に、『全国学力・学習状況調査』が、今年4月に行われました。

町教育委員会では、11月5日に開いた教育委員会で、調査結果の概要を公表することを決めました。

今回の調査の分析結果をお知らせします。

この調査では、国語、算数・数学の2教科について、**問題A**（知識に関する問題）と**問題B**（活用に関する問題）の調査、および**質問紙調査**（生活習慣、学習意欲・環境などの調査）が行われました。

ここでいう学力は、「全国学力調査」ではかることのできる特定の学力の一部であり、児童生徒の学力すべてを表しているものではありません。各校でそれぞれ結果を分析し、学習状況の改善に役立てることを目的にしています。

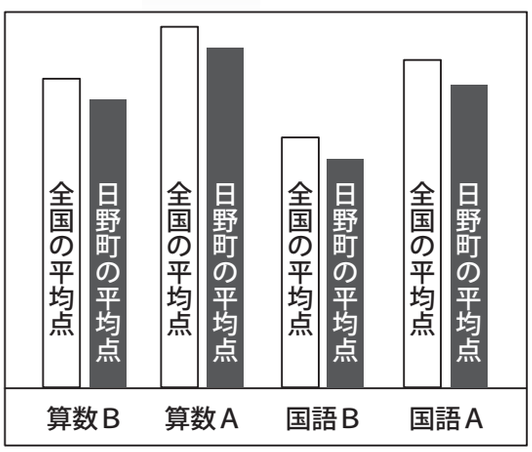
小学校では…

国語、算数とも全国平均よりやや低い結果に

右下のグラフのとおり、小学校では、国語、算数とも全国平均よりやや低い結果になっています。

全国平均より高い例として、国語では、「漢字を正しく書く（57・9ポイント）」「相手の立場や状況を感じ取って聞く（78・9ポイント）」など。算数では、「小数の乗法の計算（84・2ポイント）」「乗数が整数である場合の分数の乗法（100ポイント）」「台形の求積（89・5ポイント）」などがあります。

平均よりも低い例は、国語では、「接続語を使って内容を分けて書く（5・3ポイント）」「俳句の情景をとらえる（21・1ポイント）」「スピーチの表現を工夫する（21・1ポイント）」など。算数では、「概数の処理（26・3ポイント）」「単位量あたりの大きさ（21・1ポイント）」「割合（42・1ポイント）」などがあります。



児童一人一人に学年に応じた確かな学力をつける

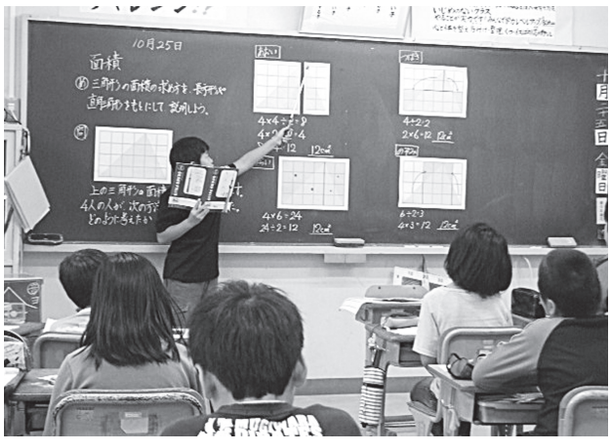
このように、問題一問ずつを見れば、全国より正答率が高いもの、低いものさまざまです。重要なことは、児童一人一人に学年に応じた確かな学力をつけることです。

また質問紙調査の全国平均よりも高い項目は、「友達の話や意見を最後まで聞く」「宿題をきちんとする」「学校で友達に会うのが楽しい」「地域の行事に進んで参加している」ことなどがあげられます。

逆に平均よりも低い項目は、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」「予習や復習をしている」ことなどがあげられます。

また質問紙調査から、普段の学習時間が短く、テレビやＤＶＤなどを見る時間が長いことも分かりました。

今後、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るとともに、「活用する力」を伸ばし、将来への展望を持ち、目標に向かって努力しようとする態度を養っていく必要があります。



算数の授業で計算方法を説明する児童

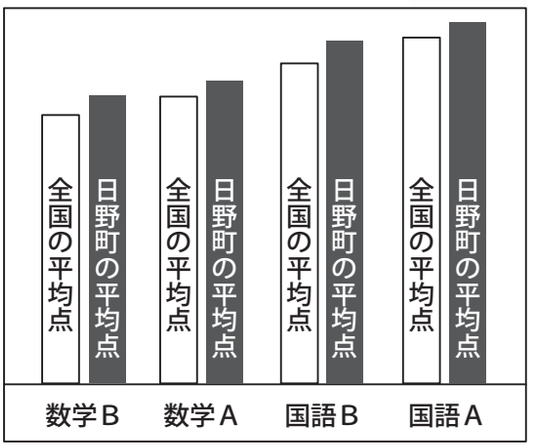
中学校では…

国語、数学とも全国平均より高い結果に
また、それぞれに課題も残る

右下のグラフのとおり、中学校では、国語Ａ、国語Ｂ、数学Ａ、数学Ｂとも全国平均より高い結果になっています。

国語全体として、「国語への関心・意欲・態度」「書くこと」「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」については正答率が高いといえますが、「話すこと・聞くこと」については課題が残るといえます。

例として、「文脈の中における語句の意味の理解（92ﾎﾟｲﾝﾄ）」「文章の表現の特徴をとらえる（92ﾎﾟｲﾝﾄ）」「文章の展開に即しての内容把握（84ﾎﾟｲﾝﾄ）」「情報を関連させて読む（80ﾎﾟｲﾝﾄ）」などは高い正答率で好結果となりました。一方、低い例として「話すこと・聞くこと」の中の「話し合いの方向をとらえて司会の役目を果たす（44ﾎﾟｲﾝﾄ）」があげられます。日ごろから人の話を聞いて理解したり、思いを伝えたりといったコミュニケーション活動が重要であるといえます。



数学では、「数と式」「図形」「関数」の領域で全国平均を上回っていますが、「資料の活用」はやや下回っています。

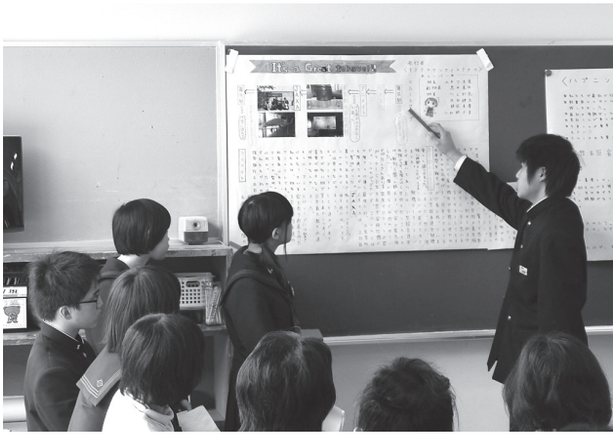
特に正答率が高いものは、「整式の加法と減法の計算（92ﾎﾟｲﾝﾄ）」「連立方程式の作成（96ﾎﾟｲﾝﾄ）」「与えられた表からの情報を適切に選択・処理（80ﾎﾟｲﾝﾄ）」「証明の方針の作成（72ﾎﾟｲﾝﾄ）」などがあります。

平均よりも低いものは、「言葉で表された式の数学的な意味を考え、事象を式の意味に即して解釈することができる（28ﾎﾟｲﾝﾄ）」「事象を数学的に解釈する（24ﾎﾟｲﾝﾄ）」などがあります。

数学全体では、「問題の意味を理解し、その背景を読み取ること」「さまざまな数学的性質を理解し、具体的事象に活用すること」が、今後の課題といえます。

発表する機会などが多いことを生かし、授業の充実を図る

また、中学校では、「自分の考えを発表する機会が与えられている」や、「話し合う活動をよく行っ


考えたことをまとめ、発表する生徒